

青年委員会だより

令和7年12月1日（第284号）

青森県建築士会青森支部青年委員会

『建築体験伝道活動』授業



— “建築を仕事にする”を知る進路授業

11月13日 青森県立工業高校にて「『建築体験伝道活動』授業」が行われた。

この授業は毎年、進路選択を控えた建築科2年生を対象に、実際の建築の仕事に触れ、将来を考えるきっかけをつくることを目的として実施されている。

当日は松野委員長が講師を務め、青年委員会からは片山さん、嶋中さん、黄金崎(惇)さん、黒滝の4名がサポートとして参加した。生徒29名を前に、松野委員長より「建築に携わるきっかけ」「設計事務所の仕事内容」「資格取得の流れ」などについて講話が行われた。来年度は2級施工管理技士の受験する学年であることから、資格に関する説明では、熱心にメモを取る姿も見られた。また、最短ルートで取得できる2級建築士や、建築士の年収に関する話題にも関心が集まった。

青年委員会メンバーからも一言ずつメッセージを伝える場面があり「実際に携わった仕事」「現場で感じる面白さ」「建築を学んだきっかけ」など、それぞれの経験を交えた言葉に、生徒たちは真剣に耳を傾けていた。質疑応答では「将来、間取りを作りたいがどのように勉強すればよいか」「委員の皆さんが、仕事で大切にしていることは何か」といった質問が上がり、進路を見据えた積極的な姿勢がうかがえた。

青年委員会では今後も、次世代の建築人材育成に向けた取り組みを継続していく予定である。



青森支部 青年委員会 11月定例会

11月14日 アウガ6F 多目的室にて、青森支部青年委員会の11月定例会が開催された。今回の議題は主に下記の3点。

— こども建築アカデミアについて —

9月に開催された「こども建築アカデミア」の振り返りと、来年度に向けた改善点について意見交換が行われた。各組合からは「昨年末より取り組みやすく、子どもたち一人一人に声をかけながら対応できた」など、前向きな意見が寄せられた。一方で、来年度に左官ブースが加わる場合の全体配置や体験内容の整理など、次回へ向けた課題も共有された。

今年度の実施で得た気づきや改善点を踏まえ、来年度の方向性が確認された。

— 地域実践活動発表会について —

2026年2月7日「地域実践活動発表会」が開催予定。今年度は青森支部を含む4支部が発表を予定している。参加支部は12月初旬頃に決定予定。

青森支部の発表内容は、今年大幅にリニューアルされたワークショップ「こども建築アカデミア」を中心に据える方向で検討中。

— 東北ブロック大会について —

2026年3月28日 十和田市にて「第15回 東北ブロック青年大会あおり大会」が開催予定。2月の地域実践活動発表会で選出された支部が、青森県代表として東北ブロック大会で発表を行う。大会へご参加希望の方は、ぜひお気軽にご一報ください。

定例会後は 唐揚げが人気の青森うまいもん居酒屋 わやわや にて、先月の「こども建築アカデミア」慰労会に参加できなかったメンバーを含め、懇親会を開催。鉄筋組合の神さんも加わり、終始にぎやかで和やかな時間となった。

今回は忘年会。初めての方も馴染みの方も、ぜひお気軽にご参加ください！



— 今後の活動予定 —

12月12日 青年委員会 忘年会

- 2026年 -

1月23日 建築士会青森支部 新年会

2月 7日 地域実践活動発表会

2月20日 第5回 定例会

3月13日 第6回 定例会

3月28日 東北ブロック青年大会
(十和田市)



近現代建築の文化的価値と 保存の活用性

～都市の価値を高める建築デザインとは～

11月23日 弘前市のスペースデネガにて、
景観シンポジウムが開催された。

講師の笠原一人氏からは、日本では保存が
中心で大きな介入を伴う再生が避けられが

ちだが、実際には時に大胆な介入によって再生を進めた事例が紹介された。
五十嵐太郎氏からは「かたちに残り、意味が変わり、それでも使われる建築」をテ
ーマに、役割や記憶が変化しながら受け継がれていく建築の姿が示された。

パネルディスカッションで笠原氏は、建築を“使いながら道筋を立てていく”再生
には“待つ時間”が必要だと述べた。オランダでは第三者の文化財登録でその時間
を確保できるが、日本では所有者の同意が必須で価値ある建築が残りにくい。その
ため、所有者や社会が建物の価値を知り、再生への視点を持つことが重要だと語ら
れた。五十嵐氏からは、首里城再建が“元の形に戻す”前提で進められた一方、ノー
トルダム大聖堂では多様な再生案が議論された点が紹介された。

再生においては、私たちが学んできた「形態は機能に従う」という理念をいった
ん解きほぐし、むしろ「機能は形態に従う」視点の重要性が示された。

青森県立美術館

コレクション展 2025-3

秋のコレクション展は版画がアツい！

1950～90年代の県内小中学生らが制作し
た版画作品をコレクション作品とともに、
「平和への願い」「地域に学ぶ」「他者と生き
る」等のトピックで紹介する特集展示「コス
モスの咲くとき -地域に学び、平和を刻む
教育版画の“いま”」を開催。

本企画は「教育版画」における子どもたちの
「他者と共に生きる実践」という側面に改め
て注目し、反復させ、アートを社会の今を動
かす力につなぐ展示プロジェクト。戦後80
年を迎えた今、私たち自身も子どもたちのま
なざしと連帯しながら学び直し、版画を通し
て平和を積極的に求める重要性を提示して
いる。前期は1月18日まで開催。



BOOK PICKS

未完の建築
前川國男論 戦後編
松隈洋



みずぎ書房

何が人の心をうつのだらう。いつの頃から
か、われわれは建築の本質的な美や力を見失
い、表面的な美しさや豪華さに心を奪われ
るようになった。官能的なこころよさは永続
的な力を持ち得ないーと前川國男は言う。
「人間にとって建築とは何か」を問い続けた
姿勢や思想は晩年の建築群に刻まれている。
前川自身の言葉や当時の資料から、その人
と作品、社会と時代を読み解く一冊。前川國
男の戦後を追う研究書。（著者：松隈 洋）

編集 / 黒滝 和



会 期：12月2日（火）～1月18日（日）
場 所：ヒカリエホール（渋谷ヒカリエ9F）

ハンス・ウェグナーは、ミッドセンチュリー
期のデンマークデザインに留まらず、20世紀
の家具デザイン史における代表的存在とし
て語られている。代表作である《ザ・チェア》
や《Yチェア》は高い人気を誇り、生涯で実
に500脚以上の椅子を世に送り出した。

本展は、世界的な椅子研究家であり北欧を
中心とした近代家具のコレクターでもある
織田憲嗣氏のコレクションを有する北海道
東川町の協力を得て、椅子約160点、その他
家具などを一堂に集めた、国内でもかつて
ない規模のウェグナーの大回顧展となる。建
築家・田根剛氏による会場構成のもと、豊
富な作品群と関連資料を通して、その創作
の軌跡とデザイン哲学を振り返る。

青年委員会 定例会 12月12日（金）19:00～（酒とおでん 八屋）

参加ご希望の方は 下記へご記入の上ご返信ください

FAX：017-771-4320 / mail：info@aaba.gr.jp

氏名

TEL